

メキシコ アボカドの関税は誰が代償を払うのか?

[FreshPlaza](#) 2025年3月11日

メキシコのアボカド市場は、米国政府による25%の関税の発表後、不確実な状況に直面している。この措置は2回延期され、現在は4月2日に施行される予定である。この状況は、米国市場に大きく依存している生産者と輸出業者の間で懸念を引き起こしている。

グループエノルマ社のディレクターであるルイス・エンリケ・オルティス・マドリガル氏は、同社は輸出用のアボカドの栽培と収穫に専念していると話す。直接の貿易を行っていないにもかかわらず、このセクターのバリューチェーン全体がこの関税措置の影響を受けている。

同氏によると、2024-25年度シーズンの果実のサイズは前年よりも小さく、これにより産地での価格にばらつきが生じている。同氏は、「入数48のような大玉の価格は、今シーズン主流の入数70のような小玉の価格よりも高い」と言う。(以下「」は同氏の話)

この状況には、気候変動が決定的な役割を果たしている。アボカドの開花は干ばつの影響を受けており、これが生育の遅れと古い果樹園での収量の低下につながっている。「以前は2倍穫れていたのに、今では1ヘクタール当たり9トンしか収穫できない果樹園もある。」

メキシコからの農産物輸入に25%の関税が課せられるとの発表は、このセクターに不確実性を生じさせている。この措置はまだ施行されていないが、その実施は生産者に深刻な打撃を与えると見られる。「問題は、それによって誰が最も影響を受けるかである。いつものように、生産者は鎖の最初の輪であり、最も打撃を受ける者の一人である。」

この関税は、米国内の価格に直接影響を与える可能性がある。アボカドは現在、産地から3ドル/kgで出荷されているが、テキサス州のマッカレン等米国の市場では6ドル/kgに達する。関税の適用により、価格は約1.50ドル/kg上昇する可能性があり、最終消費者にとってより高価になる一方、メキシコの実産者が必ずしもその恩恵を受けるわけではない。

さらに、近年は『ペソ高』が生産者の収益性に打撃を与えている。「為替レートが下落(ドル安・ペソ高)した時、アボカドのドル建ての価格は同じままだったが、メキシコペソでは25%の損失となった。」

不確実性はあるものの、同氏は関税が恒久的な措置になるとは考えていない。「これは米国にとって諸刃の剣である。なぜなら、メキシコのように365日市場に供給できる国は他にないからである。」

他の生産国がこの状況にチャンスを見出す可能性がある一方で、メキシコの米国への近さは依然として競争上の主な利点である。「メキシコ産のアボカドは24時間でテキサス州の市場に出回ることができるが、南米産の果実の場合、そのプロセスははるかに遅くなる。」

市場の将来は、メキシコ政府と米国政府の交渉と、消費者の反応にかかっている。メキシコのアボカド業界としては、輸出戦略の見直しを要する経済的打撃の可能性に直面しており、警戒を続けている。

執筆者: ディアナ・サハミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)メキシコ産アボカドは1994年以来関税を支払ったことがない

[FreshPlaza 2025年3月11日](#)

「メキシコ産アボカドは1994年以来関税を支払ったことがなく、2020年のUSMCAの更新によって保護されている」

メキシコの農産物に対する25%の関税をめぐる最近の混乱は、輸出部門、特にアボカド産業に懸念と混乱を引き起こしている。

メキシコ州アボカド生産者・輸出業者協会(Apeamex)のマヌエル・セルダ会長は、「1994年の自由貿易協定の締結以来、アボカドは関税を支払ったことがなく、2020年のUSMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)の更新のおかげで保護されている。それは今も変わっていない。ただし、2026年に予定されている協定の再交渉を、新しい貿易条件を確立したい米国政府が2025年に前倒ししようとしている兆候があることから、アボカド業界はこれを注視している」と述べている。(以下「」は同会長の話)

アボカドは関税が免除されているにもかかわらず、輸入関税に関する発表によって生じた不確実性により、米国への出荷が急激に減少した。

「関税の最初の発表は非常に大きな不安を引き起こし、ミッション社、ウエストパック社などの主要な輸入企業がアボカドの調製や出荷を完全に停止した。この状況により、国境での物流が崩壊し、アボカドの出荷量が最大90%減少して通関業者や輸送業者の業務に影響を与えた。」

さらに、措置が停止される前に25%の関税を支払った一部の輸出業者は、現在、払い戻しを要求している。「状況が不確実な時期に通関した貨物の多くは、25%の関税を払った。その直後に米国がこれらの関税の適用に関する決定を変更したため、現在彼らはその支払いを回収するための法的な仕組みを探している。」

この状況に直面して、アボカドの輸出業者達は米国市場への依存を減らそうとしている。「何年もの間、我々は他の市場をペルーやコロンビアなど他国の手に委ねてきたが、今やそれらを取り返す時が来た。」戦略的な輸出先として同会長は、ヨーロッパ、日本、韓国、アラブ首長国連邦、カナダ等を挙げた。

現在、米国で消費されるアボカドの91%はメキシコ産であり、貿易の制限は両国の経済に強い衝撃を与えることを意味する。他方、メキシコのアボカド業界は、新しい市場での存在感の強化に注力している。

「輸出業者は、あらゆる政治的变化が貿易を危険にさらすような状況を許すわけにはいかない。我々は30年間、米国に無税でアクセスできたが、彼らがゲームのルールを毎月変えたいと考えるのは公平ではない。我々は自分たちの利益を守るために合法的に行動している。」

メキシコ政府は慎重な立場を崩さず、貿易に関する報復を行う前に米国からのさらなる声明を待っているが、これは過去の関税紛争におけるカナダの対応と同様である。

「それは日替わりの不確実性である。ある日1つのことを言われ、次の日にはすべてが変わる。今のところ、今月の期間を利用して、他の国の取引先との関係を強化し、あらゆる状況に備えている。」

執筆者: ディアナ・サハミ